

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071500247		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑 Bユニット		
所在地	和歌山県有田市千田 403-1		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/ndex.php?act=on_kouhyou_det.ai_2010_022_ki_hon't.rue&ji_gvosyoCd=3071500247-00&PrEfCd=30&VersiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方、一人一人が、自分の力で出来る事を継続できる様に支援し、それぞれのリズムに合わせた、寄り添う介護を心がけ、共同生活ではありませんが、自分の生活スタイルを持ち、自分らしさを持って過ごしてもらっています。認知症をありのまま受け入れ、穏やかに健康で明るい生活を送れるように、一方的に介護を受けるのではなく、職員と共に自分のペースで、日常生活にかかわって頂き、生きがいを持って支えています。高齢の方も多く、自苑で延命治療なしの看取りを希望されているご家族もいらっしゃる、実際、何人かの方の看取りもさせていただき、今後も、命の尊厳を念頭におき、よい見取り、より家庭に近い見取り、ここで最期を迎えられてよかったです、ご本人やご家族に思ってもらえるように、努力と知識を高めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千田地域の最大の行事である秋祭りに、地区の班長として関わり、地域の会議にも職員が積極的に参加している。今まで、若者等との交流は少なかったが、この秋祭りの行事を推進する過程で、新たな繋がりができ、改めて事業所の働きを地域の方々に理解していただく良い機会となった。事業所と地域の繋がりが更に強固なものとなっている。利用者と職員が和気あいあいと周りの景色を楽しみながらスーパーに買い物に出かけ、地域で生活されている住民と交わることで笑顔の交流が生まれている。開設して9年が経過し、利用者の看取り介護に真剣に取り組んできた実績から自信が感じられる。また、主治医、家族との連携が充分図られ、利用者、家族に安らぎと安心をもたらしている。このようなケアの実践は、職員間の良好な人間関係にも現れており、風通しの良い事業運営が感じ取れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、家庭的な雰囲気の中、その人らしく暮らし続けていけるよう、「自由」「尊厳」「歓び」を盛り込んだ理念を作り、管理者と職員は、経営理念を念頭におき、共有を深め、サービスの向上に繋げている。	代表者が、練り上げた理念を全職員で共有している。普段の業務の中で啓発をし、理念に沿って時には厳しい指導をし、利用者はもちろん、職員も楽しく笑顔で仕事をする心を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入はもちろんの事、小学校の運動会やカラオケ大会など、地域の行事には積極的に参加し、溝清掃、ごみ置き場の掃除、地区秋祭りにも参加、地域の人々との交流を図っている。	千田地区最大の行事である秋祭りに参加している。班長という役割が事業所を理解していただける良い機会であるという意味もあり、祭りの打ち合わせにも、職員が積極的に参加し、地域の一員として活躍している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生涯学習、高校の職場実習、近隣の中学校の職場体験を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会はあまり開催できていないが、地区の代表者、利用者の家族、市職員の方々と情報交換は密に行っている。	運営推進会議は、昨年一度、今年度はまだ開催できていないが、地区の班長として地区の話し合いに参加し、地域の方々に事業所の運営内容を理解してもらえるよう伝えるようにしている。	家族、地域の代表者、行政の担当者等が一堂に会し運営についての話し合いを持つことの重要性を認識していただき、運営推進会議の開催回数を増やし、より良い運営が実現できることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、電話、来苑、市役所を訪れる等、行き来する機会も多く、相談や意見の交換等に質の向上に努めている。	介護認定の更新に伴う認定調査、生活保護の受給、社協の権利擁護事業の利用等、市町村等の担当者との連携は常に図られている。開設から9年を経ており、関係機関との良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の参加や、事業所内で勉強会を実施など、職員の正しい理解向上に努めている。昼間、玄関は開放し、自由に出入りできるようにしているが、さりげなく安全確保を行えるように心がけている。	玄関は施錠せず、行動の制限はされていない。利用者の不意な外出にも職員がさり気なく見守りをしたり、地域住民の協力も得られている。スピーチロックと言われるような言葉の抑制にも気をつけて、その場で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法の外部研修参加や、内部研修を行い、内容を理解するようにしている。日々の何気ない介護が、虐待に繋がる行為となっていないか、念頭に入れながら、ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用している方が一人いるので、職員全員が制度を理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書も見やすく、説明は丁寧に行い、質問・疑問点については、いつでも受け付け、その都度、納得できるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来苑された時、又、電話をかけた時、何か、要望や不満、苦情がないか、尋ねるようにしている。何でも尋ねてもらいやすい雰囲気作りに努めている。	ご家族の面会時には、何でも言えるような雰囲気と言葉がけをし、安心感を持ってもらえるよう心がけている。また、長年入居されている利用者も多く、ご家族との良好な関係が築けている。面会が少ないご家族にも働きかけを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員全体でのミーティング、及び、会議を開催し、意見の収集をし、反映している。	AユニットとBユニットは別々に会議を行い、ユニットの自主性や独自性を尊重している。この会議では、利用者のケース会議だけでなく、職員の勤務体制等も話し合わせ、管理者に報告されている。職員間の人間関係も良好で、何でも話し合える雰囲気が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスにならぬよう勤務シフトを作成している。 資格取得に向けた支援もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は順次行っており、内部研修も随時開催し、サービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は外部研修に参加することにより交流を図り、ケアに活かしている。管理者は同業者との食事会をいたり、訪問をしたりし意見や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のさりげない会話から、本人の意向やこれまでの生活を聞き取り、望む生活を探り出すとともに、信頼関係を構築し、理解する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず、ご家族と対面し、これまでの経緯や、求めているものを理解し、どのような対応ができるのか、事前にゆっくりと話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく早期に必要なとしているサービスを見極め、他のサービスも視野に入れた柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや不安、喜びなどを知る事に努め、人生の先輩であるという考えを持ち、支援する側、される側ではなく共にささえあえる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を取り合いながら、利用者の様子や職員の思いを伝える事で、気づきの情換共有に努め、本人と一緒に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や買い物の時、ご近所の方々と気軽に挨拶や、会話ができるように支援している。馴染みの場所に散歩に出かけたり、地域の行事に参加している。	毎日3～4名の利用者と一緒に、周辺の景色や地域住民の生活の様子等を肌で感じながら、徒歩で近くのスーパーに買出しに出かけている。また、自動車を利用して美容院や商店に出かけるなど、個別の外出の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、時々変わる事も多い利用者同士の関係を把握し、助け合える事は職員も交え行ない、孤立する利用者もないよう、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了された方やその家族の方にも外で出会えば、来苑の声かけをしたり、近況を話したりしている。年賀状を送付したり、祭りのお誘いもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、かかわっていく中で、今の思いや、希望を汲み取れるように努力している。意思疎通困難な方にはご家族に情報を得たり、表情などからも汲み取り、把握できるようにしている。	職員全員が情報を共有しやすい記録方法を採用し、フロアミーティングで意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な利用者であっても、試行錯誤しながら、ケアの実践に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートに記入してもらったり、直接本人や、家族から語られる情報を参考にし、これまでの暮らしに近づけるようにしている。情報が薄い場合は本人の会話、行動により推測する努力もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の言動・行動等で、どの様な心身状況なのか、アセスメントし、把握するよう努めている。今出来る事を一人一人の状況、事業所の環境に照らし合わせ、その時感じた出来事、思いを汲み取るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフだけでなく、医療機関や家族と、日常的に意見交換が出来ている。又、家族の意見、その他、職員や関係者(PT、ドクター)の意見を反映しながら、現状に即した介護計画であるのかを随時検討している。	2週間に1度の往診と週1回の看護師の訪問がある。また、必要により理学療法士との話し合いも持たれており、介護の側面だけではなく、医療との連携も充分図られ、介護計画にも反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日々、ケース記録、バイタルチェック、食事摂取量、排泄等を記録すると共に、申し送りノート、疑問質問ノートを活用する事で、職員間で情報を共有し、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、いつでも外出、外泊、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察には、徘徊のある方に対する万が一の時の支援、消防には避難訓練、民生委員には運営推進会議への参加等、各方面から支援を受けている。又、ボランティア、職場体験、高校生実習も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する「かかりつけ医」があるなら、そこを受診してもらい、電話等でも連携をとっている。事業所で知りうる情報は、本人、家族の同意の下、全て医療機関に伝えるようにし、最善の医療を受けられるようにしている。	内科の医師の2週間に1度の往診や、歯科医師の往診及び受診の支援をしている。また、本人及び家族の意向に添った医療機関への受診の支援も行っている。利用者の急変等の緊急時は、医師の往診を依頼することで利用者に安心してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入院されていた方の場合には疑問に思う事等があればすぐに医師、看護師に連絡をとり対応している。体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組み、変化等があれば、適切な医療に繋げていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーを持参し、入院のダメージを極力減らすよう病院との連携をとっている。お見舞いをしたり、家族とも回復状況等の情報交換をし、苑内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の生活について意見交換を行い、どのような段階にきた時でも話し合いを持ち、本人にとって良い環境が選べるよう支援している。苑での看取りを希望されるなら、安心して納得した最期を迎えられるようにチームで対応を話し合っている。	今までの終末期介護の実績が、事業所としての自信となっている。主治医、看護師、家族、介護スタッフとの連携が充分図れている。家族には契約時だけではなく、その都度、看取りについての意向を確認しながら関係者と方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手本マニュアルを作成し、職員の周知徹底を図り、慌てず対応できる様に努めている。又、救命講習も受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練は年2回行っている。消火器やスプリンクラー、火災警報器などの定期点検を行っているが、今後、災害時の避難場所等のマニュアルを作る必要があると思われる。	近隣住民の参加も得て、利用者も交えた年2回の避難訓練が実施されている。昨年の大雨で河川が増水し一時避難をした経験から、家族、地域からの支援の必要性を感じており、マニュアル作りを予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報収集や外部との情報連携の際には、守秘義務について理解し、プライバシーの確保には最新の注意を払っている。一人ひとりの人格を尊重できるように、日常的な確認と改善に取り組んでいる。	利用者の呼称は、尊厳に配慮し本人の意向や表情等、利用者が受け入れてくれる呼び方を基本にしている。また、不適切な言葉かけには、その場でお互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを日々の表情や言動で察知し、本人が自ら決定でき、意欲低下にならず納得できるよう支援している。表出が困難な方でも、個々の能力に合わせ感情が表現できるように声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在の生活が本当に利用者の望んだ生活スタイルなのかを常に問いかけ、意思選択の場を増やすよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながらその日着る洋服を尋ねたり、身だしなみの乱れがある時はさりげなく声かけし、カバーしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化等により一緒に準備や片付け等は難しくなっているが、食事が一番の楽しみであると考え、本人の好きな物をそれぞれ楽しめるよう支援し、旬の食材や行事に合わせて、季節感を味わえる様にしている。	毎日、買い物に出かけ食材を調達し、旬の物をメニューに入れている。直接調理が難しい利用者にも、視覚や匂いで調理風景を楽しんでもらっている。また、事業所の菜園では季節の野菜等を収穫し、食卓に提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のバランスを配慮し、偏らないようにしている。量も各々に合わせて調整し、食べやすい形にしたり、水分量も工夫し、確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアは利用者の状態に合わせて、徹底して行っているが、昼食後は口腔ケアをする習慣のない人にはお茶を飲んでもらったりしている。夜間、義歯は洗浄剤に入れ、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意曖昧な方には時間を見計らい声かけしたり、尿意のない方は定期的に確認したり、トイレ誘導を行う。失禁時もプライドを傷つけない、さりげなく交換している。	利用者個人個人の排泄サイクルを把握し、トイレ誘導や、リハビリパンツ、パットを適切に使用し、排泄の自立を目標に個々の状態に合わせた排泄の支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを記録し、便秘気味の方には牛乳や本人の好む飲み物にて水分を摂ってもらい、繊維質の多い食材を提供するようにしている。医師との相談により薬も処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一人になる夜勤帯以外はいつでも入浴できるようにしている。又、入浴している時間も本人の意思や様子を確認した上で、ゆったりとくつろぎの時間となるように配慮している。	毎日入浴する方、仲良しの2人で入浴する方、自立した方で夜間に入浴する方等、曜日、時間、回数を制限せず、希望に沿った入浴支援が出来ている。また、職員一人での介護が難しい利用者には、安全確保のため2人で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡はされる方とされない方がいるが、疲れを感じているような時には横になる声かけをしている。就寝時、眠れない方には談話したり、暖かい飲み物などを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の服薬ファイルを作成し、目的や副作用を職員が理解できるようにしている。その方に応じ、確実に服薬できるようにし、変更があった場合は職員全員が周知し、状態を観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や趣味を把握し、生活の中でそれぞれに発揮して頂き、感謝の言葉を伝えることで生活への張りに繋げている。散歩、買い物、レクリエーション等で気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日課となっている。車椅子を押せる方には押ししてもらったり、途中の風景を会話に盛り込みながら近所の方にも声をかけてもらっている。日々、買い物には、同行してもらい、ドライブや喫茶店、少しの遠出なども折に触れ、行っている。	毎日のスーパーへの買出しの外出では、利用者と職員の和気あいあいとした様子が、地域の住民の方の目に止まり、お褒めの言葉を頂いたこともある。また、外食、ドライブはもちろん、近くの温泉に行ったりと利用者の意向に沿った外出支援が実践されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方がほとんどとなっている為、家族さんに了解を得た上、事業所で預かり、買い物時は代行し、支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、いつでも使用出来るようになっている。自分で掛けられない方には職員がダイヤルするなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、手作りのカレンダー、カウンターにはいつでも自分でお茶が飲めるようにしている。五感刺激が不快になっていないか、気をくばり、不快な表情になっていないか注意している。	季節を感じる事のできる空間づくりに配慮しながらも、過剰な飾りつけには気をつけている。ごく自然な空間が家庭的な雰囲気を醸しだし、居心地の良い空間となっている。利用者の落ち着いたある言動からもその実態が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブルは一体的であるが、そばの空間にはソファに座って、一人でテレビ鑑賞をしたり、他者と談話できる場所を設けてある。それぞれ、利用者は一日を思い思いの場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたタンスや衣装ケース、机を持ってきてもらい、少しでも以前の暮らしに近づけ、本人らしく、居心地よく暮らせるようにしている。	居室には、自宅から持ち込まれた仏具や鏡、写真、テレビ、タンス等、利用者の使い慣れた馴染みの品々が日常生活に潤いと安心感を与えている。また、利用者は思い思いに、写経、庭掃除、日記つけ等に勤しみ、それぞれに合わせた支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室がわかる様に配慮したり、動線には障害物を置かないようにし、安全に移動できるようにしている。残存機能を見極め、個々の自立した生活を支えられるよう日々考え、支援にあたるよう努めている。		